

小平市食物資源循環モデル事業

小平市では、平成 22 年度から、生ごみを食物資源と位置づけ、分別収集し、資源としてリサイクル（たい肥化）する「食物資源循環モデル事業」を開始しました。

平成 24 年度は、7 月から市内全域を対象とし、合計 600 世帯の参加を目標として事業を実施し、モデル事業の検証を行い、平成 25 年度からの本格実施を目指していきます。

実施内容

- ◆**開始時期** 平成 24 年度は 7 月 4 日（水）から収集開始。本格実施は、平成 25 年 7 月からを予定。（なお、本格実施についても、モデル事業と同様に、希望団体の登録制を予定しています。）
- ◆**実施地区** 市内全域
- ◆**募集团体数** 平成 24 年度については、参加団体数は問いませんが、合計で 200 世帯程度になり次第締め切ります。また、本格実施時から参加を希望する団体については、団体数を問わず仮登録できます。
- ◆**申請の期限** すでに当初の申請期限を過ぎていますが、募集世帯に達するまで継続して募集します。（先着順）なお、本格実施時から参加を希望する団体については、随時仮登録できます。
- ◆**参加申請の手続き**
 - 参加方法及び申請者** 市内にお住まいの方で、ご近所・集合住宅などで 5 世帯以上 のグループを作り、集積所を決めて、参加世帯の代表者の方が市に届出をしてください。※世帯数には上限はありません。なお、本格実施時から参加を希望する団体は、その旨申し出てください。
 - 申請に必要なもの** 食物資源循環モデル事業参加団体登録申請書および参加世帯名簿（申請書はごみ減量対策課、東部・西部出張所で配布。小平市ホームページからもダウンロードできます）
- ◆**決定の通知など** 参加が決定しましたら、参加団体の代表者に、食物資源循環モデル事業参加団体登録通知書を送付します。

参加が決まったら

◆食物資源の出し方

- 道具** 専用の抗酸化バケツを使用していただきます。
なお、平成 24 年度については市が無償で貸出します。
（ふた付き、市が集積所を確認後、代表者へ参加世帯分を配布）
- ※食物資源を入れておいても、腐敗や臭気がしにくいバケツです。
1 週間分の食物資源をためます（バケツに直接入れずに、ビニール袋（レジ袋）などを内袋としてお使いください）。

○場所と曜日

- ・毎週水曜日の朝 8 時までに、あらかじめ届け出た集積所に専用バケツのまま出します。委託業者が内袋ごと食物資源を回収します。参加世帯は、回収後の空のバケツを各自持ち帰ります。
- ・各世帯への戸別収集ではありません。
- ・協力していただいた世帯の方には、ごみ減量関連グッズを差し上げます。また、出来上がったたい肥も配布する予定です。



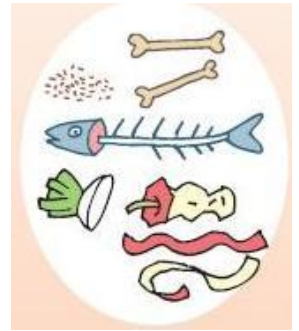
<食物資源の分別>

○資源になるもの（バケツに入れられるもの）

人が食べられるものは基本的に資源になります。

※上手に続けるポイント

- ・水分をよく切ってから入れると腐敗が進まず、臭い対策になります
- ・コーヒーかすなどは臭い消しに有効です
- ・魚など臭いの気になるものは燃えるごみに出してもかまいません
- ・夏場などは数日分だけでもかまいません



○バケツに入れられないもの

食品類

- ・貝殻類、くるみ・やしの実などの殻、あめ、
- ・調理前の香辛料、調味料、粉類（少量であれば可）



ビニール類・プラスチック類・金属類

- ・ビニール袋（内袋として使用するものは可）、輪ゴム、ビニールテープ
- ・プラスチック容器（お弁当に付いているソースやしょう油入れほか）
- ・バラン（お弁当の仕切りなどに使うもの）、スポンジ、ストロー
- ・スプーン、フォーク、おたま、おわん

その他

- ・はし、つまようじなどの木製類
- ・洗剤、たばこの吸い殻や灰、汚泥
- ・コーヒーのペーパーフィルターやティーバッグ



※今後、品目を追加する場合があります。

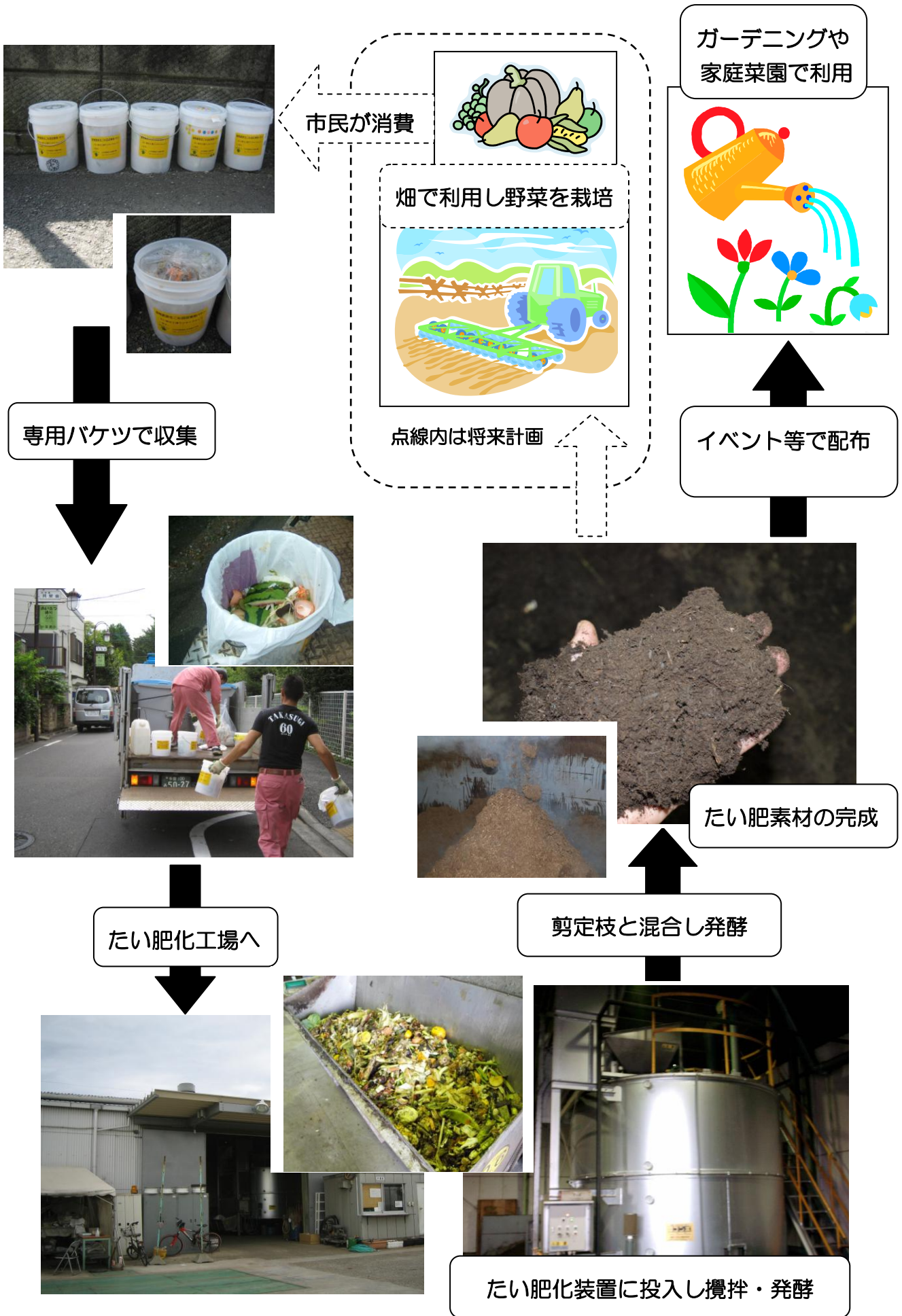
※分別が不明なものについては、下記までお問い合わせください。

問合せ ごみ減量対策課

☎042(346)9535

✉gomi-genryo@city.kodaira.lg.jp

<食物資源の循環の流れ>



<収集量の推移>

平成 22 年 7 月～平成 23 年 6 月		
	述べ回収世帯数	回収量
7 月	507 世帯	990 kg
8 月	490 世帯	1,000 kg
9 月	643 世帯	1,170 kg
10 月	653 世帯	990 kg
11 月	534 世帯	1,050 kg
12 月	660 世帯	1,350 kg
1 月	530 世帯	1,090 kg
2 月	537 世帯	1,000 kg
3 月	654 世帯	1,250 kg
4 月	515 世帯	990 kg
5 月	511 世帯	970 kg
6 月	739 世帯	1,470 kg

当初参加世帯 156 世帯

6 月末参加世帯 172 世帯

※述べ回収世帯数・・・その月の毎週水曜に集積所に出されたバケツの総合計

(例: 1 世帯が 4 週間出した場合: 1 世帯×4 週=4 世帯)

平成 23 年 7 月～		
	述べ回収世帯数	回収量
7 月	1,284 世帯	2,680 kg
8 月	1,478 世帯	2,990 kg
9 月	1,230 世帯	2,290 kg
10 月	1,224 世帯	2,310 kg
11 月	1,521 世帯	3,070 kg
12 月	1,218 世帯	2,550 kg
1 月	1,177 世帯	2,460 kg
2 月	1,381 世帯	2,790 kg
3 月	1,200 世帯	2,220 kg
4 月	1,175 世帯	2,220 kg
5 月	1,475 世帯	2,910 kg
6 月	1,174 世帯	2,310kg

当初参加世帯 403 世帯

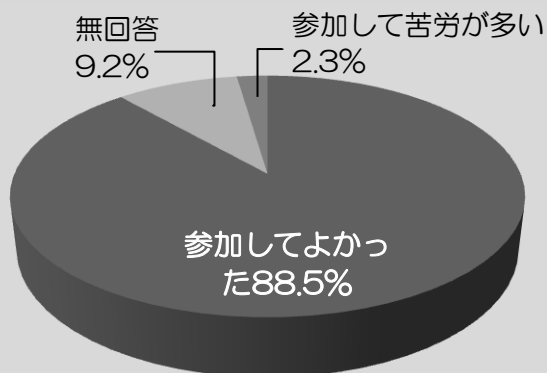
6 月末参加世帯 400 世帯

アンケート調査結果

モデル事業に参加されている世帯を対象にアンケート調査を実施しました

アンケートの結果、回答者のおよそ9割の方から、参加してよかったとの感想をいただきました。

Q. モデル事業に実際に参加した感想は？



調査対象：平成 23 年 3 月時点の全参加世帯 172 世帯を対象に実施。(回答 130 世帯)

「参加してよかった」と答えた方たちの声

- 燃えるごみの量が大幅に減った
- 燃えるごみの日に集積所がカラスに荒らされなくなった
- 燃えるごみが臭くならないので2週間に1度しか出さなくなった
- 水切りをきちんとするようになって、さらにごみの量が減った
- ごみに対する意識が変わり、ごみを減らそうという気になった
- むだな物は買わなくなった
- 燃えるごみ用のごみ箱が汚れなくなった
- エコへの参加ができて、役に立っていることが実感できる
- 生ごみがたい肥などに資源化されると嬉しい
- 近所の方たちと助け合うようになり、つながりが深まった